

3つの滝や絶景の紅葉見どころ

黒滝溪流 観光名所に

弘前 常盤 前野 景観再生へ住民協力



地域住民らの協力で整備が進む黒滝溪流

弘前市常盤野にある「黒滝溪流」を観光スポットとしてアピールしようと、岩木山観光協会（三上千春会長）は先月中旬から景観再生整備に取り組んでいる。十日は、同協会や地区住民らが協力し、枝や草刈り作業を行い、現在、溪流内の整備はおおむね終了した段階。同協会は十一月ごろまで、木や草に覆われ危険とされる、溪流付近の遊歩道を再生する作業などを進め、地元でも絶景とされる秋の紅葉と幻想的な冬景色を見せようと張り切っている。

散策ルートなど整備

黒滝溪流は同協会の方がすむとされるほこらイトフックにも景勝地として紹介される名所。龍ウで有名な常盤野農村公神がすむと伝えられ、古園や黒滝溪流なをつなぐから地元の人が手入れく遊歩道もあり、観光客し、守り続けていた。見や地区住民の散策ルートどころは三つの滝や龍神になっていた。

岩木山観光協会は整備されていたその景観を

再現しようと、地区住民や土地を所有する嶽開発に呼び掛けた。これを受けて、先月から、嶽開発が主体となり、第二の滝

の補強や龍神をまつるほこらに向かう老朽化した架け橋の造り直し、ほこらの鳥居周辺にある砂利の敷き直しなどを行ってきた。

現在は同協会のほか、近隣の旅館や商店、住民らが協力し、溪流付近の枝や草刈りなどを行っていった。同協会によれば、

将来は看板の設置や湯殿の沼からの散策ルートも整備し、誘客につなげた方針。三上千会長は「整備には地区のボランティアの働きが非常に大きい。昔からなじみのある溪流だが、小学生でも安心して来られる場所にした」と話した。